

# みんなの未来きこう

発行：特定非営利活動法人全員参加による地域未来創造機構  
発行責任：半澤彰浩



新たな出会いと気づきがあります。

## 「地域を豊かにするための連続講座」

<横浜会場>



かながわ県民センターにて

## キャリアアップ講座「傾聴講座」



新横浜オルタ館にて



多世代交流スペース宮ノ前テラスにて

各種講座の  
詳細・申込  
はこちら



2023年度  
これから  
始まる講座

## 地域を豊かにするための連続講座(大船)

11/1～12/6 全4回連続講座 時間は10:00～  
大船POP-UPスペース(大船駅徒歩3分)

### キャリアアップ講座

★人間関係をスムーズに、事業活動の  
マネジメントに役立つ実践的な講座★

- ⑦10/12(木) コーチング講座
- ⑧11/23(木) コーチングの具体的スキル
- ⑨12/14(木) アンガーマネジメントとは
- ⑩ 2/14(水) 介護過程

★時間はいずれも10:00～12:00

★会場はオルタナティブ生活館(新横浜)

★オンライン(ZOOM)でも会場でも受講できます。

NPO法人全員参加による地域未来創造機構

アソシエーション活動交流会を開催します。

【後援】(社福)神奈川県社会福祉協議会  
(社福)横浜市社会福祉協議会

●2023年5月、市民活動団体を対象に実施したWEBアンケート151団体の調査結果、およびそのうち20団体のヒアリング調査結果を報告します。

## 出会って、つながる交流会

日時：2023年11月14日(火)10:00～12:30

会場：かながわ県民センター301会議室

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2(横浜駅西口徒歩5分)

地域の多様なたすけあい活動に関心のある人、参加したい人、すでに活動している人たちをつなげます。



### プログラム

- ★調査結果報告
- ★2団体からの事例報告
- ★ワールドカフェで交流しましょう！
- ★もうちょっと交流タイム

参加費  
無料

(特非)全員参加による  
地域未来創造機構  
(略称：未来機構)

〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F  
Tel:045-534-7131 fax:045-534-7151 e-mail:minnano@miraikikou.org

<https://www.minnanomiraikikou.org/>

# みんな・つながる・みらい

NPO法人全員参加による地域未来創造機構は、2022年4月に設立。「アソシエーションが主役のまちづくり」を掲げ、地域で人と人がつながる居場所や小さなアソシエーションを増やし、誰もが自分らしく生きられる地域社会をつくることをめざします。これまで神奈川県内で居場所やたすけあいなどの地域の活動への共感や参加を高めるための講座を開催してきました。その講座を受けて、学んだこと、それがどんな活動につながったのか、講座を受けようと思っている人へのメッセージなどを寄稿していただきました。

2022年度「市民基礎講座」受講

## 地域のことを自分ごととして振り返る機会になった

奥田恵子

昨年9月、生活クラブ組合員や色々な業種のワーカーズ・コレクティブの方々と一緒に「市民基礎講座」を受講しました。初めは、超少子高齢化や人口減少、それに起因するさまざまな課題、子どもの貧困等について学びました。地域社会の中で隣近所のたすけあいが希薄になっている中、これまで以上に孤立、貧困、就労困難等の困難な課題を持つ人たちがたくさんいる事が分かり驚きました。また自分がどれだけ地域の困り事を認識していなかったか、同じ地域に住み暮らす身として自分事として振り返る良い機会になりました。

「こども食堂」を運営されている方からのお話では「孤食」を減らしたいと活動を始めた事を伺い感銘を受けました。フィールドワークにも参加し多世代の地域の人たちが一緒に色々な活動をされていることを知り私にもできる事があるという気づきにもなりました。

現在、地域の活動として月に1度開催されているサロンやカフェに参加しています。来られた方の元気な笑顔を見る度に安心し元気をもらっています。この活動をみんなの力で継続していく事も大切な事の一つだと再認識しました。一人ではできないことも同じ思いを持つ人たちとのネットワークで、誰でも気軽に来られる新たな居場所づくりが出来たらと思案中です。

実際身近な問題に取り組んでいる市民団体の方の活動や運営についてのお話を聞き、現場を見る事で学べた事は自分の考えを振り返り、具体化するきっかけになると思います。

これから活動の場を体験できると、より身近に感じイメージできるのではないのでしょうか。

(おぐだけいこ・横浜市緑区在住)



2022年度「リーダー講座」受講

## 自分が地域に向けて自覚的に関わっているという充足感

ムスンギ真帆

「貴女のこれから進む道にとってもきっとよい刺激になると思う」、2022年度に未来機構の講座を受講したのは、ワーカーズ・コレクティブ Lavoriのリーダーに背中を押してもらったのがきっかけです。丁度その頃、子どもが小学生になるのを機に新しい関係性を求めLavoriに繋がり、以前から関心を持っていた生活困窮者支援事業の研修(NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会主催)を受けながら自分のライフワークになることを模索していました。

講座では、W.Coをはじめ多彩なフィールドで活動したり、働いている方々と共に学び、互いに抱える問題やチャレンジを聴き合うことで、新たな気づきがあったり、知らなかったことへの理解を深められたように思います。

地域のアソシエーションリーダーとして活躍する講師陣の実践的な講義は、社会の変化に伴い多様化し今ある制度では解決できない地域の困り事を顕在化してくれ、だからこそ今、専門職に限らず自覚を持った人と人、組織と組織が出会い繋がり合うことの必要性と、そのパワーの凄さを実感しました。私も地域に一步踏み出してみたい、そんな思いが湧いてきました。

今私は、その時の講師の一人岡田百合子さんが率いる「はたらっく・ざま」で支援員として働いています。来所する方の生きづらさや困難に向き合う時に、自分の当り前が当たり前でない人がいるという当然のことにはっとしたり、戸惑い悩むこともあります。けれど、それでも前を向けるのは、自分が地域に向けて自覚的に関わっているという充足感があるから。これからも自分自身や家族、大切な人たちを含む地域の未来の為に、何ができるか考え続けていきたいと思っています。

(おすんぎまほ・相模原市在住)





NPO法人ワーカーズ・コレクティブキャンディは2002年から川崎市で認可保育園や学童保育、子ども食堂等々、子どもの豊かな育ちに関わる事業や活動を行っています。

昨年、事務局を担っているメンバー3名が市民基礎講座を受講しました。講座で社会課題の解決に取り組む意義についての学びや活動実践を体感し、自分の役割を自覚し、やりがいに繋がっています。

### 「誰か」ではなく「私」の問題として

飯沼亜美

年代や立場など地域によっても変わりますが、悩みや不安は誰にでもあると思います。様々な理由から働くことが困難になった方への就労支援、居場所がなく困っている人の居場所作り、子どもから高齢者の方までの食の提供などです。自分の為が誰かの為になる、『誰か』の問題ではなく『私』の問題だと地域社会全体で理解し、行政や地域全体で問題を解決し、積極的に活動していく必要があるということをこの講座から学びました。(いいぬまあみ)

### まず一歩前へ進んでみる

岩佐弘子

現在の様々な社会問題や、それらの問題に取り組む市民団体の活動内容や運営を知ることができました。「壮大な問題より身近な問題を考える」「まず一歩前へ進んでみると、助けてくれる人や同じ考えの人は多くいる」という講師の方々の言葉はとても印象的でした。

自分ごととしての意識を持ちながら活動するきっかけとなりました。(いわさひろこ)

### 子どもの安心、安全な居場所を

本橋沙織

市民基礎講座を受講し、子どもの貧困、ヤングケアラーの人が多くいるという事を知りました。その中で、子どもが安心、安全な居場所が必要だと実感しました。

私は学童クラブで子どもの見守りの仕事をしています。学童クラブが今まで以上に親が安心して預けられ、子ども達が親の帰りを安心して待って居られる場所にしていきたいと思います。(もとはしさおり)



### 子どもや若者に寄り添う居場所をつくりたい

2023年度「市民基礎講座」受講

山口早苗

教えることが楽しく、長年小学校の教師をしていましたが、生きづらさを感じている子どもたちのことを知りたくて、障害児や不登校の子どもたちに寄り添って仕事をしていました。今は、療育の仕事にかかわっていますが、今年の3月までの5年間は、相談センターでスクールソーシャルワーカーという立場で仕事をしていました。

コロナ禍で保護者の仕事がなくなり、家賃も払えない、食べ物がない、ますます生活が不安定になった、貧困、保護者の非正規採用、母子家庭、ヤングケアラー等、社会が抱えている課題が見えてきて、子どもたちが不安定になり、不登校につながっていきます。何とかしたいという考えなのですが、制度の中では対応できないことがあり、心苦しく思っていました。

そんなとき、生活クラブの食材の中に講座のチラシが入り、子ども・若者の育ちや自立をはぐくむ課題、孤立、貧困、就労困難等、多様な課題、社会で起きている現状を何とかしたいという漠然とした思いで、市民基礎講座に参加しました。

市民を真ん中に考えたいという思いのある人たちが集まり、地域に開設された居場所の貴重な話や実際に現地で見学をさせていただくなど貴重な体験をしました。講座のグループワークでは、社会や地域の現状を見つめ話し合い、一歩を踏み出し具体的な活動を生み出していこうとするパワフルなエネルギーは本当に凄いと感じました。

地域に暮らす市民たちで、助け合い、寄り添い、楽しいイベントや、話し合える場所があり、そのままの自分を表現しながら、小さな社会経験を積み重ね、何かを学び、自分の力となるような、安心できる居場所があるといいなあと思うようになりました。

そんな居場所をつくるために大事なことは、

- ①居場所づくりの方向性を決める。—地域の特性、例えば歴史や文化、自然環境などを生かした活動やイベントで、居場所をより魅力的な場所に。
- ②異なる世代や文化を尊重する。—お互いに尊重する気持ちをもって参加することで、誰もが自分らしく活動できる場所、居心地の良い場所に。
- ③地域の住民が、居場所づくりに参加できる仕組みづくり。—ワークショップや意見交換会など、住民の参加意識を高め、共同で居場所を作る。
- ④長期的な視点で居場所の運営を考える。—場所や人、運営費の確保等、居場所の持続可能な運営のためには、地域の組織や企業の協力等地域の持続的な支援を受ける仕組みづくり。

以上、4つのポイントを大事にしながら、今は、居場所の見学をし、情報を集めていき、思いのある仲間を増やし、ともにできるところから前に進んでいけたらと思います。(やまぐちさなえ・厚木市在住)

# NPO法人居場所 そら (横浜市保土ヶ谷区)

夏の太陽が照り付ける7月の水曜日、NPO法人居場所そらが行う「そらカフェ」(子どもの居場所支援活動)を訪れ、代表の水信理恵さんに話を伺いました。横浜市立橋中学校(全校生徒700名)の校門を入ると、左手にある建物の2階には格技場があり、その1階入り口に「そらカフェ」の手書きのすてきな看板がありました。(取材:桜井 薫)



手書き  
「そらカフェ」の看板

今日も満席!くつがいっぱい!



## 放課後の居場所「そらカフェ」は、今日も満席

横浜市立橋中学校では、毎週水曜日の放課後から最終下校時刻までの間、「そらカフェ」がオープンしています。中学生の居場所って意外とない、放課後、友達と過ごす場所があったらいいな!という声に応えてできたフリースペースで、授業や部活が終わってから家に帰るまでの時間、気軽にのんびり過ごすことができます。橋中学校の生徒であれば、申し込み不要でいつでも入退室OKというシステム。受付で名前を書いたら、友達やスタッフとのおしゃべり、読書、ゲーム、宿題など思い思いに過ごせます。(部屋にはジグソーパズル、カードやボードゲーム、コミック等が常備されていました) 毎回、入れ替わりで100名くらいの利用があります。

取材した日も、おしゃべりに夢中なグループや「人生ゲーム」で盛り上がるグループ等で大盛況。入口の看板には「只今、満席です」の札がかかっていました。

参加していた一年生は「とても楽しい、友達と毎週利用している」とのこと。入学して3か月余り、学校に慣れるのにも一役かっただしょう。



## 合言葉の「地域で地域の子どもの育てよう」をさらに広げたい

「地域で地域の子どもの育てよう」は立ち上げ当初からの合言葉です。地域の様々な団体や個人のつながりを広げて、めざした姿が形になってきているのがわかります。校外で会ったときにも子どもたちのほうから気軽に声をかけてくれます。

ただ、放課後の「そらカフェ」や「橘塾」に参加できるのは橋中学の子どもたちだけ。他の中学の子どもたちも来られるように和田町駅付近にも拠点をつくりたいというのが水信さんたちの今後の目標です。



左から水信理恵さん、中島有紀さん、荒木啓子さん

## 特定非営利活動法人となって、活動のウイングを広げる

「そらカフェ」「特定非営利活動法人 居場所そら」が運営しています。代表の水信さんは元PTA会長。2020年から橋中学校地域学校協働本部(※)として、学校に行きづらい子どもたちの居場所の開設やその保護者の集いの場を提供する活動をしていました。

2022年には、さらに活動の領域を広げ、継続的なものにするために特定非営利活動法人を設立。現在、その活動は地域の子どもの保護者が参加できる「土曜日そらカフェ」や、学習支援「橘塾」、「人生講座」(子どもたちがいろいろな職業の人の話を聞く)、防犯・美化活動として、学校の「花壇整備」、「わんわんパトロール」(愛犬の散歩をしながら地域見守り)、地域振興・健康増進活動や近所のお寺の境内を借りての子ども食堂の開催など、多岐に広がっています。こうした多様な活動を支えるのは、20名ほどのスタッフ。PTA役員経験者が多く関わり、会計、広報等各々得意な人が担当しています。



小学校を卒業すると学童保育や児童館など放課後の受け皿が急になくなります。中学生が安心して集まれる居場所として学校を活用したいと考える人は各地にいます。

「居場所そら」の活動が一つのモデルとして共有され、広がっていくことが望めます。(さくらい かおる)

(※) 地域学校協働本部(国の取組、横浜市事業)

地域学校協働活動とは、地域の大人、学生、PTA、NPO、民間企業、機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長をささえると共に、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。地域学校協働本部は、より多くの地域住民、団体などが緩やかなネットワークを形成し、地域学校協働活動を推進する体制。



発行: 2023年9月20日

発行者: (特非) 全員参加による地域未来創造機構(略称: 未来機構)

〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F

Tel: 045-534-7131 Fax: 045-534-7151 E-mail: minnano@miraikikou.org